

製薬協がNC等協力研究機関に望む プロテオームリサーチセンター(PCR)事業

【PCR事業の目的】

- ① 共同研究による**特定疾患の診断、病態把握、薬物治療効果モニターに利用可能なバイオマーカー**の獲得。(→創薬標的のバリデーションは対象外。)
- ② PCRで開発されるプロテオーム技術の参加企業への普及展開。

【共同研究について】

- 基本は**Case-Control研究を実施**することによる**マーカーの臨床的有用性**。
→Case群、Control群を注意深く選抜する必要がある。
- 十分な背景データを持ったサンプル**が100検体程度必要。

【PCRの機能について】

- 大量のヒト試料を迅速かつ、高い品質に処理分析すること。
→試料の大量処理に適した技術開発を行う。
→大学の研究室で確立した技術をPCRに技術移転
- 当面はiCAT、iTRAQを実施すること。
→新たな分析法の導入も検討していく
- PCRの機能させるためには、大型データ処理に対応できる体制を強化すること。

タンパクに限らず、
さまざまなメカニズムで、
患者の病態解明や進行などの
研究で成果を上げている
臨床医を含めた
共同研究を実施したい。

トランスクリプトーム分野研究について

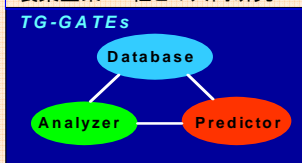
事業概要

- 以下のような研究により創薬を効率的に実施することを可能とする包括的なトランスクリプトーム解析を目指す。
- これまでの成果である動物におけるトキシコゲノミクス・データベースを活用した研究
 - ヒトへの安全性評価の外挿性の向上
 - 肝・腎毒性以外のターゲットへの拡大等の研究、

研究課題例

指定研究

製薬企業14社との共同研究

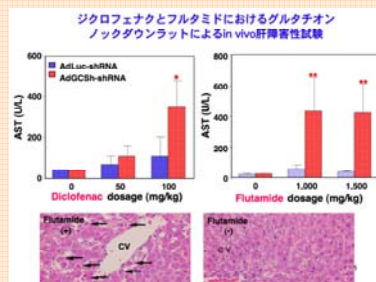


- ・**安全性バイオマーカーの開発**
血液のトランスクリプトミクス(*)
安全性 in vitro評価系(*)
安全性メカニズムの解析

- ・トランスクリプトームデータ
バリデーション
- ・ガイドンサ案の作成

公募研究

特異体質性薬物肝障害の発症機構解明と予測実験系の開発



産学官連携